

幼兒教育学科

免許・資格関係科目

幼稚園教諭二種免許状
保育士資格

授業名	日本国憲法 a	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	The Constitution of Japan	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	岸本 正司	対象学生	幼児教育1ya~yf		
授業の概要	憲法とは如何なる法なのか、憲法に基づいて国家の組織はどうつくられどう運用されているのか、国民にはどのような権利が保障され、義務があるのか、さらに、現行憲法には如何なる問題があるのか、などの諸点について認識を深める。				
学習成果到達目標	1) 憲法学（政治学）上の基本的な用語を理解できる。 2) 憲法の存在とその適切な運用が、私たちの生活の基盤をなしていることを認識する。 3) さまざまな憲法学説をまなぶことを通して、物事を多面的に捉えることができる。				
評価方法	定期試験 (50 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checkbox"="" checked="" type="checkbox/>(論理的思考力</td> <td><input type="/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	<input 5"="" checked="" type="checkbox/>(国語表現力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td colspan="/> 『教養憲法 11章』 岸本正司・富永 健著（嵯峨野書院）		
参考書	『憲法 [第五版]』[岩波書店]、『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ [第5版]』[有斐閣] ほか、授業中に適宜紹介する。				
留意事項	授業計画通りすすめるので、教科書の該当箇所を精読した後、授業に臨むことが必須である。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	法学入門	(内 容)	文化と法、近代日本法の形成、わが国の伝統文化と日本国憲法 (必要な準備) 本授業計画とテキスト序章第1・2節の精読。		
第2回	憲法入門	(内 容)	二つの日本憲法 (必要な準備) テキスト序章第3節Ⅰ・Ⅱを精読しておく。		
第3回	日本国憲法の成立	(内 容)	日本国憲法成立、日本国憲法成立の法理 (必要な準備) テキスト序章第3節Ⅲ・Ⅳを精読しておく。		
第4回	天皇	(内 容)	天皇の憲法上の地位、天皇の権能、皇位の継承 皇室の経済 (必要な準備) テキスト第1章をを精読しておく。		
第5回	国民の権利及び義務	(内 容)	基本権総論 (必要な準備) テキスト第3章第1節を精読しておく。		
第6回	国会1	(内 容)	民主政治のしくみ (必要な準備) テキスト第4章第1節をを精読しておく。		
第7回	国会2	(内 容)	国会の地位、国会の構成、国会の活動 (必要な準備) テキスト第4章第2・3・4節を精読しておく。		
第8回	国会3	(内 容)	国会と議院の権能、国会議員の権能と特典 (必要な準備) テキスト第4章第5・6節をを精読しておく。		
第9回	内閣	(内 容)	内閣の地位、立法権と行政権の関わり、 内閣の組織、内閣の権能と責任 (必要な準備) テキスト第5章をを精読しておく。		
第10回	司法1	(内 容)	司法権の概念と範囲、司法権の独立 (必要な準備) テキスト第6章第1・2節を精読しておく。		
第11回	司法2	(内 容)	裁判所の組織と権能、違憲審査制 (必要な準備) テキスト第6章第3・4節を精読しておく。		
第12回	財政	(内 容)	財政の基本原則、予算、決算 (必要な準備) テキスト第7章を精読しておく。		
第13回	地方自治	(内 容)	地方自治の概念、地方公共団体の機関と権能、 住民自治の制度 (必要な準備) テキスト第8章を精読しておく。		
第14回	改正	(内 容)	憲法改正の意義と手続き、憲法改正の限界 (必要な準備) テキスト第9章を精読しておく。		
第15回	最高法規、授業のまとめ	(内 容)	憲法の最高法規性、憲法尊重擁護の義務、憲法と 条約、15回の授業のまとめ (必要な準備) テキスト第10章の精読、練習問題の解答。		
オフィスアワー	質問・相談等は、担当授業終了後にも受け付けます。				

授業名	日本国憲法 b	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	The Constitution of Japan	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	岸本 正司	対象学生	幼児教育1yg~yl		
授業の概要	憲法とは如何なる法なのか、憲法に基づいて国家の組織はどうつくられどう運用されているのか、国民にはどのような権利が保障され、義務があるのか、さらに、現行憲法には如何なる問題があるのか、などの諸点について認識を深める。				
学習成果到達目標	1) 憲法学（政治学）上の基本的な用語を理解できる。 2) 憲法の存在とその適切な運用が、私たちの生活の基盤をなしていることを認識する。 3) さまざまな憲法学説をまなぶことを通して、物事を多面的に捉えることができる。				
評価方法	定期試験 (50 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 論理的思考力	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	<input checked="" type="checkbox"/> 国語表現力
テキスト	『教養憲法 11章』 岸本正司・富永 健著（嵯峨野書院）				
参考書	『憲法 [第五版]』[岩波書店]、『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ [第5版]』[有斐閣] ほか、授業中に適宜紹介する。				
留意事項	授業計画通りすすめるので、教科書の該当箇所を精読した後、授業に臨むことが必須である。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	法学入門	(内 容) 文化と法、近代日本法の形成、わが国の伝統文化と日本国憲法 (必要な準備) 本授業計画とテキスト序章第1・2節の精読。			
第2回	憲法入門	(内 容) 二つの日本憲法 (必要な準備) テキスト序章第3節Ⅰ・Ⅱを精読しておく。			
第3回	日本国憲法の成立	(内 容) 日本国憲法成立、日本国憲法成立の法理 (必要な準備) テキスト序章第3節Ⅲ・Ⅳを精読しておく。			
第4回	天皇	(内 容) 天皇の憲法上の地位、天皇の権能、皇位の継承 皇室の経済 (必要な準備) テキスト第1章をを精読しておく。			
第5回	国民の権利及び義務	(内 容) 基本権総論 (必要な準備) テキスト第3章第1節を精読しておく。			
第6回	国会1	(内 容) 民主政治のしくみ (必要な準備) テキスト第4章第1節をを精読しておく。			
第7回	国会2	(内 容) 国会の地位、国会の構成、国会の活動 (必要な準備) テキスト第4章第2・3・4節を精読しておく。			
第8回	国会3	(内 容) 国会と議院の権能、国会議員の権能と特典 (必要な準備) テキスト第4章第5・6節をを精読しておく。			
第9回	内閣	(内 容) 内閣の地位、立法権と行政権の関わり、 内閣の組織、内閣の権能と責任 (必要な準備) テキスト第5章をを精読しておく。			
第10回	司法1	(内 容) 司法権の概念と範囲、司法権の独立 (必要な準備) テキスト第6章第1・2節を精読しておく。			
第11回	司法2	(内 容) 裁判所の組織と権能、違憲審査制 (必要な準備) テキスト第6章第3・4節を精読しておく。			
第12回	財政	(内 容) 財政の基本原則、予算、決算 (必要な準備) テキスト第7章を精読しておく。			
第13回	地方自治	(内 容) 地方自治の概念、地方公共団体の機関と権能、 住民自治の制度 (必要な準備) テキスト第8章を精読しておく。			
第14回	改正	(内 容) 憲法改正の意義と手続き、憲法改正の限界 (必要な準備) テキスト第9章を精読しておく。			
第15回	最高法規、授業のまとめ	(内 容) 憲法の最高法規性、憲法尊重擁護の義務、憲法と 条約、15回の授業のまとめ (必要な準備) テキスト第10章の精読、練習問題の解答。			
オフィスアワー	質問・相談等は、担当授業終了後にも受け付けます。				

授業名	教育実習事前・事後指導 a(幼稚園)		開講学年	1回生	単位数	1単位
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching(Kindergarten)		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	岸優子・乾眞理子・下温湯まゆみ・堀出雅人・石川千加代		対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	幼稚園教諭として責任ある行動をめざして、教育実習の意義、目標、実際の計画や内容を学習し、望ましい教師になるための実践を積む。実習は講義や演習・実技で学んだ授業を総合的に実践することを確認する。					
学習成果到達目標	1) 幼稚園現場で実際に保育し、幼児理解を学び、身に付けたことが実践できるようにする。 2) 幼稚園見学を通して実習の態度、保育の観察記録などミニ体験をして幼稚園教育実習への意識と責任をもつ。 3) 幼稚園現場研修に参加して現場体験をする。					
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点		<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	使用しない。					
参考書	「幼稚園教育要領」					
留意事項	教育実習に関する内容であるので無断欠席は認めない。免許取得にかかる関係科目の履修状況、出席態度によって実習開始できないこともある。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	教育実習事前・事後指導の授業について		(内 容) 授業の進め方、受講の心構え、教育実習の目的。幼稚園ボランティアの意義 (必要な準備) 実習指導の必要性を理解する			
第2回	幼稚園教育の内容		(内 容) 幼稚園教育の内容。 (必要な準備) 幼稚園の教育の役割を調べる			
第3回	幼児教育と仏教		(内 容) 仏教の精神と教育について学ぶ。 (必要な準備) 幼稚園での仏教行事について調べる			
第4回	幼児理解について		(内 容) 実習の中心となる幼児理解と幼児とのかかわりについて学ぶ。 (必要な準備) 幼児理解について予習する			
第5回	幼稚園指導計画		(内 容) 指導計画案の理解 (必要な準備) 幼稚園での保育について調べておく			
第6回	幼児の観察記録の記入		(内 容) 幼稚園見学の課題である観察記録の目的、観察の方法について (必要な準備) 観察記録を実際に作成する			
第7回	幼稚園見学についての指導		(内 容) 華頂幼稚園の概要を理解する。 (必要な準備) 見学の目的と諸注意を確認する			
第8回	華頂短期大学附属幼稚園見学		(内 容) 幼稚園教育の理解 (必要な準備) 見学し、観察記録作成			
第9回	華頂短期大学附属幼稚園見学		(内 容) 幼稚園教育の理解 (必要な準備) 見学して 観察記録作成			
第10回	2回生から教育実習の体験を聴く		(内 容) 実習の体験を聴き自分たちの実習に見通しを持てるようにする (必要な準備) 実習体験の要点を記録する			
第11回	実技・教材研究(季節に応じた制作)		(内 容) 季節の行事に関連した制作。白木のコマを彩色して、コマを回す体験を行う (必要な準備) 幼児の遊びを予想し、デザインを考えておく			
第12回	実技、教材研究(季節に応じた制作)		(内 容) 季節感を保育に取り入れた制作を体験する (必要な準備) 幼児が興味関心を持つ教材を調べる			
第13回	華頂幼稚園見学の振り返り		(内 容) 見学を振り返る。全クラスの保育の内容を知り理解を図る。 (必要な準備) 自分が見学した保育を振り返る。			
第14回	実技、教材研究{幼児の歌と手遊び}		(内 容) 仏教保育の歌と生活の歌。手遊び (必要な準備) 保育の中の音楽の重要性を調べて臨む			
第15回	幼稚園現場研修のまとめ		(内 容) 各現場研修の状況と体験から学んだことを報告して、2回生の授業につなぐ。 (必要な準備) 各報告から幼稚園の保育や教師の役割を学ぶ			
オフィスアワー	木曜日 12時10分から 13時					

授業名	幼児と生活	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Infant and Life	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	乾 眞理子・浅田 瞳	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	幼児の遊びや生活経験をかさね身につけた学びを小学校以降の生活や学習の芽生えとして伸ばしていくことの重要性を学ぶ。幼児にふさわしい生活展開ができるよう、幼稚園教員としての専門性を高め、資質の向上を図る。				
学習成果到達目標	1) 日常生活のなかから自然や生き物のなりたちや様子を感じることができる 2) 自分の地元のことを調べ、地元特有の遊びや子どもの変化について調べ、発表することができる 3) ワードやパワーポイントなどパソコンを使って課題や発表をすることができる				
評価方法	定期試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (70%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フルール館）『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省（日本文教出版）				
参考書	適宜参考書を紹介する。				
留意事項	出席を重視する。第1回目の授業で課題等を作成するときのグループを決定するので、休まないようにすること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 生活科とは何か、幼児期の教育の重要性を学ぶ。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。			
第2回	幼児理解に基づいた教材づくり	(内 容) 自然観察について学ぶ。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておく。			
第3回	園での行事と位置づけ	(内 容) 1年間の園の行事のねらいなどについて学習する。 (必要な準備) プリントを読み返す。			
第4回	幼児と社会とのかかわり(自分たちの地元について調べてみよう)	(内 容) 地域についての理解を深める。 (必要な準備) 自分の育ったところの地域社会について調べておく。			
第5回	幼児と社会とのかかわり(スライド作り)	(内 容) 自分の育ったところの地域社会について調べ、発表内容の構成を考える。 (必要な準備) 自分の育ったところの地域社会について調べておく。			
第6回	幼児を取り巻く地域社会の変化	(内 容) 幼児がどのような社会環境の中で生活しているのかを発表する。 (必要な準備) パワーポイントを完成させておく。			
第7回	遊びの中で広がり深まる生活経験	(内 容) 自然と生活環境の関連を考え、教材設定を行う。 (必要な準備) プリントを読んでおく。			
第8回	幼児と自然とのかかわり	(内 容) 生活科での取り組みから自然とのかかわりを考える。 (必要な準備) プリントを読んでおく。			
第9回	幼児の活動を豊かにする事例研究(秋を見つけよう)	(内 容) ポスターを作製する。 (必要な準備) グループごとに観察してくる。			
第10回	自分の生活について考える	(内 容) 普段の生活の振り返り。 (必要な準備) 1日の生活時間表を完成させてくる。			
第11回	幼児と身近な人とかかわり	(内 容) 幼児の身近な人とかかわりについて理解する。 (必要な準備) 幼児とつながりのある大人を調べておく。			
第12回	聴くことと伝え合いを育てる	(内 容) 「自然観察」の経験を言葉で表現する (必要な準備) 発表原稿を準備する。			
第13回	小学校との教育の連続性	(内 容) 小学校教育との連携の重要性を学び、教育現場の実際を知る。 (必要な準備) テキストを読んでおくこと。			
第14回	生活科の授業内容の計画	(内 容) 生活科の授業内容の計画をする。 (必要な準備) テキストを読んでおくこと。			
第15回	まとめと模擬授業	(内 容) 指導計画のまとめと模擬授業を行う。 (必要な準備) 今までのプリントを読み返す			
オフィスアワー	1回目の授業で発表する				

授業名	教育実習事前・事後指導 b		開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Pre and Post Guidance on Student Teaching(Kindergarten)		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	岸優子・乾眞理子・下温湯まゆみ・堀出雅人・石川千加代		対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	教育実習を行うために必要な事前の事項について具体的に学ぶ。幼稚園教育の概要を学び現場の教育の全体が理解できるようにする。					
学習成果到達目標	1) 実習の意義、目的を学習する。 2) 実習に臨むための心構えを確認する。 3) 日常の態度、言動が幼児のモデルとなるよう見直す。 4) 実習直前の準備として、教員として勤務すること、幼児とのかかわり（指導）、実習ノート記入などの重要な意義を確認する。					
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	使用しない。					
参考書	「幼稚園教育要領」、「教育課程」京都教育大学附属幼稚園編					
留意事項	教育実習の関る内容であるので無断欠席は認めない。免許取得にかかる関係科目の履修状況、出席態度によって実習開始できないこともある。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	春学期の教育実習指導について		(内 容) 実習に向けて、授業の進め方。 (必要な準備) 1回生の授業内容を確認しておく			
第2回	幼稚園教諭になるための心構え		(内 容) 教師としての意識をたかめる。 (必要な準備) どのような教師になるか考える			
第3回	教育実習2週間の内容、実習目標の設定		(内 容) 2週間の学び。目標の設定について (必要な準備) 実習での目標を考えておく			
第4回	「幼稚園指導計画案」の作成の指導		(内 容) 指導計画の目的。幼児の遊び・生活を予想して計画を立案作成する。 (必要な準備) 幼稚園教育の基本を再学習しておく			
第5回	実習ノート記入の実際		(内 容) 実習ノートの記入の必要性和記録のとり方 (必要な準備) 実際に記録を書くための資料を調べておく			
第6回	実習ノートの配布、記入の目的。実習の心構え		(内 容) 実習とノート記入の重要性。心構えを確認 (必要な準備) 実習を行い学ぶべきことを明確にしておく			
第7回	諸届けの記入について学ぶ。 実習訪問担当教員との顔合わせ		(内 容) 諸届けの記入と必要性 (必要な準備) 6月実習訪問担当教員との顔合わせ			
第8回	「幼稚園指導計画案」の作成について		(内 容) 第4回に作成した指導案について指導・講評 (必要な準備) 作成した指導案を持参し修正加筆する			
第9回	実習直前の諸注意 個人情報保護に関する誓約書の説明		(内 容) 実習中の幼児や教員とのかかわり方など。 (必要な準備) 個人情報保護の重要性と社会人としての自己の責任について理解を図る			
第10回	幼稚園教育実習期間		(内 容) 実習 (必要な準備)			
第11回	幼稚園教育実習期間		(内 容) 実習 (必要な準備)			
第12回	実習訪問の感想と指導		(内 容) 学んだこと、反省したことを9月実習に生かす。 (必要な準備) 2回目の実習を充実する目標の参考とする			
第13回	実技・教材研究(七夕飾り作り)		(内 容) 伝統行事を幼児と楽しむ保育を体験する (必要な準備) 七夕飾りについて事前研究をしておく			
第14回	6月実習の体験報告		(内 容) 学んだこと、反省したことを (必要な準備) 最後の実習を深めるための心構えをする			
第15回	9月実習ノートの配布。 9月実習の諸注意		(内 容) 9月実習に向けて指導 (必要な準備) 9月の保育を予想して実習準備をする心構え			
オフィスアワー	木曜日 12時10分から13時					

授業名	教職実践演習(幼稚園)		開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Teaching Practice(Kindergarten)		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	岸優子・下温湯まゆみ・堀出雅人・丸田まゆみ		対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	教職課程の各授業が実践と結びついているかを確認できる機会を持ち、学生が自己の課題を自覚する。幼稚園教育の基本をしっかり身につけ、「遊びを通しての総合的な指導」を行うための専門性を高め資質の向上を図る。					
学習成果到達目標	1) 幼稚園実習、ボランティアなどの現場体験の成果、2年間の各授業、活動を通じて教員としての資質が身についているか確認する。 2) 各々の課題や不足していることを補い、教員としてスタートできる知識・技能や教養の定着を図る。					
評価方法	定期試験 () % <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	「幼稚園教育要領解説」 文部科学省					
参考書	使用しない。					
留意事項	教職課程を履修し確実に身につけることができたか。保育現場において幼児を育てる責任の重さを認識すること。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	短大での授業・実習で学びの成果と課題		(内 容) 実習について振り返り、省察する (必要な準備) 9月実習の振り返りシート提出			
第2回	華頂幼稚園運動会見学に向けて研修		(内 容) 運動会の目的、幼児の発達に応じた内容を理解する (必要な準備) 幼児の運動的な遊びについて予習しておく			
第3回	華頂幼稚園運動会の見学・研修		(内 容) 運動会の目的、内容について・幼児の活動する姿から理解し、記録する			
第4回	秋から栽培する植物を学び、植える体験		(内 容) 幼児に種や球根から育てる体験の重要性を学ぶ (必要な準備) 秋から植える植物について調べる			
第5回	教師の役割について考察(ビデオ視聴から)		(内 容) 幼児の育ちに応じた指導援助を考察する (必要な準備) 教師の役割について勉強しておく			
第6回	保護者対応について講義 —子どもの発達と保護者支援—		(内 容) 幼児の成長に大切な保護者支援について学ぶ (必要な準備) 実際に行う保護者対応を予想してみる			
第7回	保護者対応について討議 —グループ討議と発表—		(内 容) 事例についてグループで話し合いまとめて発表。様々な意見を聞き考えを広げる (必要な準備) 前回の講義内容を復習する			
第8回	学生による発表会の打ち合わせ —保育を想定した実践に向けて—		(内 容) 幼児が楽しんで参加したいと思う教材を考え企画する。発表までの準備と日程を決める			
第9回	「幼児と教師で作る生活発表会」 学級経営を通して華頂幼稚園教頭より		(内 容) 幼児理解を大切にしたい日常の保育から生活発表会へつなぐ保育の実際について聞く (必要な準備) 内容についてまとめる			
第10回	学生による発表会 グループ発表(前半)		(内 容) 保育実践として幼児への導入と発表を行う (必要な準備) 観客は各グループの評価とコメントを記述			
第11回	学生による発表会 グループ発表(後半)		(内 容) 保育実践として幼児への導入と発表を行う (必要な準備) 各グループの評価とコメント。後日自分のグループの評価から振り返り課題を見つける			
第12回	クリスマスを楽しむ保育の実践		(内 容) 幼児の想像力を豊かにするクリスマスを楽しむ保育を研修する (必要な準備) 楽しんで制作できる教材を研究し、持参する			
第13回	教師の役割について研修 ビデオ視聴「3年間の保育記録・5歳児」		(内 容) 5歳児の保育の記録から集団の中で自立していく姿とそれを援助する教師の役割を学ぶ (必要な準備) 3年間の記録から学んだことをまとめる			
第14回	命を大切にすることを育む、「小動物の飼育を通して」		(内 容) 園内で小動物を飼育することの大切さと、幼児に命のあることを知らせ、命を守るという体験。 (必要な準備) 幼児が体験できる小動物を調べる			
第15回	幼小連携について —小学校への滑らかな接続を考える—		(内 容) 幼稚園教育の基本を踏まえた教育の大切さを確認した小学校への連続性を考える (必要な準備) 幼児の生活や遊びの体験が小学校へどのようにつながっていくのか理解する			
オフィスアワー	木曜日 12時10分から13時					

授業名	社会福祉概論 a・b		開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Introduction to Social Welfare		開講時期	春学期	必修・選択	必修
担当者	名賀 亨		対象学生	幼児教育1ya~yf・yg~yl		
授業の概要	本講では、現代社会が抱えるさまざまな社会問題を整理しながら、社会福祉の視点から健康・保育等について学び、そこから「社会福祉」への幅広い視野に基づく理解を深めていく。					
学習成果到達目標	1) 学生個々が「保育を軸にした社会福祉の意義」について明確な見解を述べるようになる。 2) 保育は、関連するさまざまな分野とのつながりがあってこそ成り立つことを理解する。 3) 保育に関わる専門職の役割と意義について理解する。					
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点		<input type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	授業内容に適したプリントを配布					
参考書	適宜紹介する。					
留意事項	時事問題（新聞、福祉系機関紙ならびに雑誌等）に目を向けること。					
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	授業オリエンテーション			(内 容) 授業の内容と進め方を説明 (必要な準備) シラバスを確認しておく		
第2回	生活と社会福祉			(内 容) 現代の生活と社会福祉の基本を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく		
第3回	社会福祉の歴史			(内 容) 社会福祉の歴史の変遷を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく		
第4回	社会福祉の法律			(内 容) 社会福祉に関する法律を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく		
第5回	社会福祉の行政組織			(内 容) 社会福祉行政の仕組みについて理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく		
第6回	社会福祉の民間活動			(内 容) 民間活動の内容などを具体的に理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく		
第7回	社会福祉従事者			(内 容) 社会福祉従事者や資格制度について理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく		
第8回	社会福祉における相談援助			(内 容) 相談援助の意義、方法、技術等を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく		
第9回	社会福祉における利用者保護の仕組み			(内 容) 利用者の権利擁護と苦情解決等を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく		
第10回	児童家庭福祉			(内 容) 児童家庭福祉の制度、現状と課題を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく		
第11回	高齢者保健福祉			(内 容) 高齢者保健福祉の現状と課題を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく		
第12回	障がい者福祉			(内 容) 障がい者福祉の現状と課題を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく		
第13回	生活保護			(内 容) 生活保護の現状と課題を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく		
第14回	地域福祉			(内 容) 地域福祉の現状と課題を理解する (必要な準備) 配布されたプリントを読んでおく		
第15回	まとめ			(内 容) 授業全体の振り返りとまとめをする (必要な準備) これまでの授業を振り返っておく		
オフィスアワー	水曜日 昼休み					

授業名	乳児保育 a	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Infant Care	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	林 静香	対象学生	幼児教育1ya~yf		
授業の概要	乳児保育の保育観の歴史的変遷について概説し、現代の乳児保育のニーズと意義について確認する。0歳～2歳の年齢ごとの発達の特徴、それぞれの年齢で大切にしたいことを確認しながら、生活や遊びへの援助の実践について学ぶ。				
学習成果到達目標	1) 乳児保育の理念と保育所における乳児の歩み、現状と課題について理解することができる。 2) 3歳児未満の保育内容、発達、生活と遊びについて理解することができる。 3) 3歳未満児の関わり方を理解することができる。				
評価方法	定期試験 (50%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(教材の工夫力) <input type="/> ()			
テキスト	乳児保育研究会/編 改訂新版 資料でわかる『乳児保育の保育新時代』(ひとなる書房)				
参考書	穴戸健夫監修 大阪保育研究所編 テキスト『乳児保育』(フォーラム・A)				
留意事項	各単元の節目ごとに対象年齢に合わせた教材(おもちゃ)を作ってもらうので、普段の中で使えそうな日用品などを確保しておくこと。また、日頃から子どもたちを意識してみている習慣をつけて講義に備える事。最終課題に、「わたしヒストリー」を作成するので、写真や母子手帳や保育所の記録などの資料を集めておくこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	乳児保育とは何か・歴史的変遷について	(内 容) 乳児保育について理解する (必要な準備) 乳児の関する時事に触れておく			
第2回	0歳児前半期の発達と保育	(内 容) 0歳児前半期の発達を理解する (必要な準備) テキスト(0歳前半)に目を通しておく			
第3回	0歳児後半期の発達と保育	(内 容) 0歳児後半期の発達を理解する (必要な準備) テキスト(0歳後半)に目を通しておく			
第4回	0歳児の保育の留意点	(内 容) 0歳児の保育の留意点を再確認する (必要な準備) 0歳児の教材について調べておく			
第5回	小テスト①(0歳児まとめ)・教材発表	(内 容) 0歳児の基本的な養護について確認する (必要な準備) 0歳児の発達のまとめについて確認しておく			
第6回	1歳児前半期の発達と保育	(内 容) 1歳児前半期の発達を理解する (必要な準備) テキスト(1歳前半)に目を通しておく			
第6回	1歳児後半期の発達と保育	(内 容) 1歳児後半期の発達を理解する (必要な準備) テキスト(1歳後半)に目を通しておく			
第7回	2歳児前半期の発達と保育	(内 容) 2歳児前半期の発達を理解する (必要な準備) テキスト(2歳)に目を通しておく			
第8回	2歳児後半期の発達と保育	(内 容) 2歳児後半期の発達を理解する (必要な準備) テキスト(2歳)に目を通しておく			
第9回	1・2歳児の保育と留意点	(内 容) 1・2歳児の保育の留意点を再確認する (必要な準備) 1・2歳児の教材について調べておく			
第10回	小テスト②(1、2歳児まとめ)・教材発表	(内 容) 1・2歳児の基本的な用語について確認する (必要な準備) 1・2歳児の発達を確認しておく			
第11回	あそびについて(0歳のあそび)	(内 容) 0歳に心地よいあそびを理解する (必要な準備) 乳幼児のあそびについて調べておく			
第12回	あそびについて(1、2歳のあそび)	(内 容) 1・2歳児のあそびのねらいを理解する (必要な準備) 乳幼児のあそびについて調べておく			
第13回	乳児保育の制度と課題	(内 容) 現代の保育制度や現状を学ぶ (必要な準備) テキストp132~140を読む			
第14回	乳児保育のまとめ	(内 容) 乳児保育における配慮と留意点を再確認する (必要な準備) 課題を作っておくこと			
第15回	教材発表	(内 容) 課題である教材を提出する (必要な準備) 課題を提出できるよう完成させておくこと			
オフィスアワー					

授業名	乳児保育 b	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Infant Care	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	鈴木 えり子	対象学生	幼児教育1yg~yl		
授業の概要	児童福祉施設である特に保育所における乳児3歳未満児(0、1、2歳児)の保育に関する基礎的な知識・技術を学ぶ。1. 乳児保育の概念と意義、乳児保育の基本や援助方法を理解する。2. 発達段階の特徴を踏まえた保育援助を理解し、保育者として養護すべき点や生活面での援助・方法の実際を学ぶ。3. 保護者との連携について学ぶ。				
学習成果到達目標	1) 乳児期(0、1、2歳児)の理論や基礎的な知識・技術を理解し実践できる。 2) 乳児期の発育・発達について理解し、年齢に応じた援助、健康管理、事故防止の視点がわかる。 3) 保護者支援の重要性を理解し、対応について考えることができる。				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	
テキスト	『赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」の実践力』川原佐公監修 保育出版社、				
参考書	『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館				
留意事項	「乳児」に接する機会が極めて少ないと思われるので、日頃から乳児を観察する意識をもったり、乳児の理解を助けたりするために視聴覚教材や玩具の実物を活用しながら講義を中心にすすめる。また、実際に乳児クラスで使えるおもちゃ制作をする。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	乳児および乳児保育の概念	(内 容) 乳児の概念について理解する (必要な準備) テキスト P44~49 を読んでおく			
第2回	乳児保育の基本、制度	(内 容) 乳児の法的制度および乳児保育の歴史、基本について理解する (必要な準備) テキスト P162~167 を読んでおく			
第3回	乳児の発達と保育の方法	(内 容) 乳児期の発達と遊びについて理解する(0歳児・1歳児) (必要な準備) テキスト P120~125 を読んでおく			
第4回	乳児の発達と発育	(内 容) 乳児期の発達と遊びについて理解する(2歳児クラス) (必要な準備) テキスト P126~129 を読んでおく			
第5回	乳児保育の実際	(内 容) ビデオ視聴しながら解説する。乳児の実際について映像を通して理解する。乳児に関してわからない点を明確にする。 (必要な準備)			
第6回	乳児保育の方法①	(内 容) 食事(授乳・調乳・離乳食)、排泄、睡眠などの基本的な生活習慣と援助について理解する (必要な準備) テキスト P64~72、P154~155 を読んでおく			
第7回	乳児保育の方法②	(内 容) 衣服の着脱、環境整備、清潔について理解する (必要な準備) テキスト P73~77、P94~105 を読んでおく			
第8回	乳児保育と保健衛生及び安全	(内 容) 乳児にとっての手遊び、ふれあい遊び、絵本の役割について理解する (必要な準備) テキスト P82~93 を読んでおく			
第9回	乳児クラスの計画と記録	(内 容) 乳児期の保育課程・指導計画の必要性と考え方を理解する (必要な準備) テキスト P134~143 を読んでおく			
第10回	家庭・地域との連携	(内 容) 連絡帳、園だより、個人懇談、クラスだよりなどについて理解する (必要な準備) テキスト P186~189 を読んでおく			
第11回	子育て支援の現状	(内 容) 少子化対策の経緯や子育て支援の現状についての理解 (必要な準備) テキスト P168~177 を読んでおく			
第12回	保育士の資質と役割	(内 容) 乳児保育担当者としての心構えと役割、資質向上の視点 (必要な準備) 保育所保育指針を読んでおく			

第 13 回	乳児の健康管理と安全	(内 容) 保育室の安全管理、健康管理 (SIDS の理解)、 予防接種などについての理解 (必要な準備) テキスト P50～61 を読んでおく
第 14 回	乳児のおもちゃ制作	(内 容) 乳児の簡単なおもちゃ制作の実施 (必要な準備) おもちゃを制作するものに必要な材料を持参する
第 15 回	まとめ 各自のおもちゃ発表	(内 容) 乳児の簡単なおもちゃ制作を発表する (必要な準備)
オフィス アワー	月曜日 午後 15 時から 17 時まで	

授業名	障害児保育 a	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Child Care for Children with Disability	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	大西 雅裕	対象学生	幼児教育1ya~yf		
授業の概要	障害のとらえ方や保育について歴史的な経過や現状をおさえた上で、各障害に対する基礎知識、保護者等への支援、他機関との連携等について学ぶ方を解説する。				
学習成果到達目標	障害の概念と障害児保育の理念を理解し、その発達を援助する保育をしてゆく上で必要な基礎知識について理解する。保護者、家族への支援や関係機関との連携および子どもをとりまく現状を把握し障害児保育の課題を理解する。				
評価方法	定期試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (20 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checkbox="" checked="" type="checkbox/>(興味・関心をたかめる) <input type="/> ()			
テキスト	基本保育シリーズ17 『障害児保育』 西村重稀、長田俊郎編集 (中央法規出版) 2015年				
参考書	『新・障害のある子どもの保育 第2版』伊藤 健次編 ((株)みらい) 2011年				
留意事項	保育士必修科目であることに留意し、授業の復習をしっかりとしておくこと				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	イントロダクション・障害の概念と対象	(内 容) 「障害」の概念、障害児保育を支える理念 (必要な準備) テキスト はじめに			
第2回	障害児理解と歴史的変遷	(内 容) 歴史的変遷や制度などの理解 (必要な準備) 前回の復習			
第3回	視覚・聴覚障害児の理解と援助	(内 容) 視覚・聴覚障害児の理解 (必要な準備) 前回の復習と絵本についての理解			
第4回	肢体不自由児の理解と援助	(内 容) 肢体不自由の概念の理解 (必要な準備) 前回の復習			
第5回	知的障害児の理解と援助	(内 容) 知的障害の理解 (必要な準備) 前回の復習			
第6回	発達障害児の理解と援助①	(内 容) 発達障害の特性 (必要な準備) 前回の復習			
第7回	発達障害児の理解と援助②	(内 容) 発達障害の理解と支援。 (必要な準備) 前回の復習			
第8回	個々の発達をうながす生活や遊びの環境	(内 容) 前回までの授業理解ができているかの確認 (必要な準備) 今までの授業の復習			
第9回	子ども同士のかかわりと育ち合い	(内 容) 集団の保障の必要性を理解する (必要な準備) 今までの授業の復習			
第10回	指導計画の作成と記録	(内 容) 指導計画の理解 (必要な準備) 旋回の復習			
第11回	個別の支援計画	(内 容) 支援計画の理解とその方法 (必要な準備) 前回の復習			
第12回	保護者や家庭に対する支援	(内 容) 障害児を取り巻く環境と事例検討 (必要な準備) 前回の復習			
第13回	地域の専門機関との連携	(内 容) 地域の専門機関との連携 (必要な準備) 前回の復習			
第14回	小学校との連携	(内 容) 小学校へのスムーズな移行のための連携 (必要な準備) テキストを読んでおく			
第15回	まとめ	(内 容) 前回までの授業理解ができているかの確認 (必要な準備) 今までの授業の復習			
オフィスアワー	授業時間での対応				

授業名	障害児保育 b	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Child Care for Children with Disability	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	林 静香	対象学生	幼児教育1yg~yl		
授業の概要	障害のとらえ方や保育について歴史的な経過や現状をおさえた上で、各障害に対する基礎知識、保護者等への支援、他機関との連携等について学ぶ方を解説する。				
学習成果到達目標	障害の概念と障害児保育の理念を理解し、その発達を援助する保育をしてゆく上で必要な基礎知識について理解する。保護者、家族への支援や関係機関との連携および子どもをとりまく現状を把握し障害児保育の課題を理解する。				
評価方法	定期試験 (50 %) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技	平常試験 (50%) ☑筆記試験 ☑レポート □制作物 ☑口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点	☑知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ☑課題発見・解決能力 ☑(興味・関心をたかめる) □()			
テキスト	『新・障害のある子どもの保育 第2版』伊藤 健次編 ((株)みらい) 2011年				
参考書	『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』堀・橋本・直島編 (ミネルヴァ書房) 2014年				
留意事項	保育士必修科目であることに留意し、授業の復習をしっかりとしておくこと				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	障害児理解と歴史の変遷	(内 容) 「障害」の概念、障害児保育を支える理念 (必要な準備) テキスト はじめに			
第2回	障害児保育の制度について	(内 容) 歴史の変遷や制度、発達保障などの理解 (必要な準備) 前回の復習			
第3回	障害児保育の思想について	(内 容) 障害児保育のさまざまな保育形態の理解 (必要な準備) 前回の復習			
第4回	障害の基礎知識と保育:発達の流れ(前)	(内 容) 子どもの発達の流れの理解(こころ) (必要な準備) 前回の復習			
第5回	障害の基礎知識と保育:知的障害(1)	(内 容) 知的障害の理解 (必要な準備) 前回の復習			
第6回	障害の基礎知識と保育:知的障害(2)発達障害(1)	(内 容) 知的障害の支援・発達障害の特性(ASD) (必要な準備) 前回の復習			
第7回	障害の基礎知識と保育:発達障害(2)	(内 容) 発達障害の理解(ADHD,LD)、支援。 (必要な準備) 前回の復習			
第8回	障害に関する基礎知識と保育:小テスト(1)	(内 容) 前回までの授業理解ができてきているかの確認 (必要な準備) 今までの授業の復習			
第9回	前半のおさらいと事例検討	(内 容) 今までの授業の理解度を確認する (必要な準備) 今までの授業の復習			
第10回	障害の基礎知識と保育:発達の流れ(後)	(内 容) 発達課題、発達の流れの理解(脳・身体) (必要な準備) 特になし			
第11回	障害に関する基礎知識:視覚・聴覚障害	(内 容) 視覚・聴覚障害の理解、支援。 (必要な準備) 前回の復習			
第12回	障害に関する基礎知識:言語障害・てんかん	(内 容) 言語障害・てんかんの理解、支援の理解 (必要な準備) 復習。テキストを読んでおく			
第13回	障害に関する基礎知識:運動障害、要医療ケア児	(内 容) 運動障害、重度重複障害児、要医療ケア児 (必要な準備) 前回の復習			
第14回	障害のある子どもの保育の現状と課題	(内 容) 保護者・きょうだいへの援助 (必要な準備) テキストを読んでおく			
第15回	障害に関する基礎知識と保育:小テスト(2)	(内 容) 前回までの授業理解ができてきているかの確認 (必要な準備) 今までの授業の復習			
オフィスアワー					

授業名	保育実習指導 I a	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Guidance on Child Care Training I	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	鈴木えり子・藤井裕子・日永よし子・箱田成司・芹澤出	対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	春学期の事前指導は、児童福祉施設（保育所・居住型児童福祉施設）での実習施設の概要と実習の意義・目的、実習方法を理解するために、主として講義を通じて行う。保育士の職務は「援助」が主であるため、その援助職に求められるコミュニケーション力を高める演習を行う。また、実習施設の生活の流れや保育士の職務について理解を得るために、視聴覚教材等を用いる。実習に関わる書類準備を行う。				
学習成果到達目標	1) 保育実習の意義・目的・内容・方法を理解できる。 2) 実習生としての心構えが理解できる。 3) 保育士の役割・専門性・実習施設の理解を明確にし、実習生としての姿勢が確立できる。				
評価方法	定期試験 ()%	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『保育実習』鈴木えり子編 相川書房				
参考書	随時紹介する				
留意事項	保育実習に関わる内容であるので、無断欠席は認めない。学科の保育関係科目の状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。(要注意)				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション 実習関係連絡票の説明		(内 容) 授業内容や受講についての諸注意 実習における調査票の作成・説明・留意事項の確認 (必要な準備) 保育士資格を取得するかを考慮しておく		
第2回	保育実習概要の説明 保育実習の意義・目的		(内 容) 実習概要について学ぶ。保育実習の意義・目的・内容を理解する (必要な準備) 実習関係連絡調査票 教科書を読んでおく		
第3回	施設実習の意義・目的		(内 容) 施設実習の意義・目的・内容を理解する (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第4回	保育所実習の実際を知る		(内 容) 保育所の一日についてビデオ視聴し保育所実習とは何をするのかを考え、保育内容や、保育所のデイリープログラムを理解する (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第5回	施設の実習内容を理解する(種類など)		(内 容) 乳児院 児童養護施設の一日のビデオを視聴し理解する。施設実習先の実習内容を理解する、施設の種類について学ぶ (必要な準備) 教科書を読んでおく		
第6回	施設実習の実際を知る		(内 容) ビデオ視聴し施設実習とは何をするのかを考えその意義を考える (必要な準備)		
第7回	実習に必要な最低限の知識-クラス別		(内 容) 実習に必要な基礎的な知識、マナーをクラス別に学ぶ (必要な準備)		
第8回	実習に必要な最低限の知識-クラス別		(内 容) 実習に必要な基礎的な知識、マナーをクラス別に学ぶ (必要な準備)		
第9回	実習に必要な最低限の知識-クラス別		(内 容) 実習に必要な基礎的な知識、マナーをクラス別に学ぶ (必要な準備)		
第10回	実習に必要な最低限の知識-クラス別		(内 容) 実習に必要な基礎的な知識、マナーをクラス別に学ぶ (必要な準備)		
第11回	実習方法の説明①		(内 容) 実習方法、実習園の選択についての説明を受け、自分の実習園を選定する。実習報告書の書類提出について理解する。 (必要な準備) 配布プリント		

第 12 回	実習方法の説明②	(内 容) 地域ごとの顔合わせを実施する 京都市内も同様に説明を行う (必要な準備) 配布プリント
第 13 回	実習依頼時の基本的なマナー	(内 容) 基本的なマナーを学ぶ (実習依頼、挨拶や電話のかけ方) (必要な準備) 配布プリントを読んでおく
第 14 回	実習生カードの作成—下書き	(内 容) 実習生カードの作成説明 下書きの提出 (必要な準備) 写真2枚 黒ペン 施設実習の期間発表の掲示を見ておく
第 15 回	春学期のまとめ(学びの振り返り)秋学期に向けての課題	(内 容) 春学期の学びの振り返りと夏期休暇中の課題の説明を聞く (必要な準備) 春学期のノート
オフィス アワー	各教員より 時間については授業内で連絡する	

授業名	保育実習指導 I a	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Guidance on Child Care Training I	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	鈴木えり子・藤井裕子・芹澤出・日永よし子・箱田成司	対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	保育実習 I に向けての事前指導であり、春学期から引き続き実施する。秋学期は主として、実習目標や課題の決定、課題達成に必要な準備を主として講義・演習をレポート課題（実習課題・実習記録・指導計画の作成など）の提出、添削を通じて行う。保育士の職務について理解を得るために、ビデオ視聴や上位回生とのかかわりも取り入れる。実習に伴う各種書類を提出する。				
学習成果到達目標	1) 自分自身の実習施設に対してより深く理解し、実習に対する意欲を高めることができる。 2) 保育所実習と施設実習のそれぞれの制度や実習意義を理解でき、実習課題を明確にできる。 3) 実習生としての心構えが体得できる。 4) 実習の事前準備を行うことができる。 5) 実習後は反省文、反省会、評価面談等を通じて、実習体験や成果をさらに深め、保育士としての役割・専門性・自己評価・自己点検をし、各自の課題等をさらに深化できる。				
評価方法	定期試験 () %	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『保育実習』鈴木えり子編 相川書房				
参考書	随時紹介する				
留意事項	保育実習 I の事前・事後にあたる通年の学内実習指導であるため、春学期からの通年で必ず履修すること。実習に関する重要事項を学ぶ場であるので、無断欠席は認めない。また、学科の保育関係科目の修得状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。(要注意)				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション	(内 容) 秋学期に向けての心構え、予定、実習期間の確定、夏期休暇の課題の点検 (必要な準備) 夏期課題のレポート 名札 先輩への質問を明確にしておく			
第2回	実習報告会①(保育所実習編)	(内 容) 先輩の実習体験を聞く (必要な準備) 先輩への質問項目を書いておく			
第3回	実習報告会②(施設実習編)	(内 容) 先輩の実習体験を聞く (必要な準備) 先輩への質問項目を書いておく			
第4回	自閉症について	(内 容) 自閉症について理解を深め、保育者としてのかかわりを理解する (必要な準備) 配布プリントを読んでおく			
第5回	知的障害者とのかかわり、支援について	(内 容) 知的障害者の生活、かかわり、支援について、実習生としてどのようにかかわるかを具体的に学ぶ (必要な準備) 障害者支援について講義ノートを見直しておく			
第6回	保育所実習の記録・記録方法	(内 容) 実習記録の意義・記録方法について理解する (必要な準備) 配布プリント			
第7回	施設実習の記録・記録方法	(内 容) 実習記録の意義・記録方法について理解する (必要な準備) 配布プリント			
第8回	指導計画と教材準備①	(内 容) 簡単な制作を実施する。指導のポイントを理解する。指導計画を学ぶ。 (必要な準備) はさみ 色鉛筆 新聞紙 のり セロテープなど			
第9回	指導計画と教材準備②	(内 容) 簡単な制作を通して指導のポイントを理解し、指導計画を立案する。 (必要な準備) 指導計画(案)			
第10回	施設実習先(母子生活支援施設、児童養護施設)における実習の学び	(内 容) 母子生活支援施設や児童養護施設についてその現状、実習生としてのかかわりや心構えを理解する (必要な準備) 講義ノートを見直しておく			
第11回	実習目標・課題を明確にする①(保育所)	(内 容) 保育所における実習目標・課題を明確にする (必要な準備) 教科書第5章を読んでおく			
第12回	実習目標・課題を明確にする②(施設)	(内 容) 施設実習における実習目標・課題を明確にする (必要な準備) 教科書第6章を読んでおく			

第 13 回	実習の心得 実習の諸注意、実習に関する手続き	(内 容) 実習の心得、実習中の注意事項、実習園とのオリエンテーション、お礼状など、実習の具体的内容を確認する。健康診断、検便検査の手続きの説明、検査申込み書類の提出をする (必要な準備) 検査に伴う証紙、切手代を購入しておく
第 14 回	実習課題の見直し 指導 実習直前の指導	(内 容) 実習課題の個別添削を返却し、指導。質疑応答を行い、実習への不安を解消する。 (必要な準備) 秋学期の内容を見直し疑問点を明確にしておく
第 15 回	訪問担当者との個別面談	(内 容) 実習訪問担当者との個別面談を実施し、相互連絡の確認と質疑応答を行う (必要な準備) 実習園とのオリエンテーション報告書を作成しておく
オフィス アワー	各教員より 時間については授業内で連絡する	

授業名	児童福祉Ⅱ	開講学年	1回生	単位数	2単位
英文名	Child WelfareⅡ	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	流石 智子	対象学生	幼児教育1回生		
授業の概要	現代の社会状況、特に少子や高齢の社会を背景に、家庭や地域で子どもはどのような生活をしているのか。生活は子どもの成長発達を十分保障できる状況なのか。子どもは社会や地域や家庭の問題から厳しい生活を強いられることもある。それが人間として成長発達することを阻害することにもなりかねない。子どもの生活にかかわる問題を解決するためにはどのような社会的支援や児童福祉が必要かを学び、児童福祉の理念と意義について考え、基本的人権の理解を深める。子どもがかかえる問題について細かく分析をしながら授業を行う。				
学習成果到達目標	1) 現代の社会状況を理解し、子どもたちの生活実態の把握をすることができる。 2) 子どものかかえる問題の現状とその対策について考えることができる。 3) 児童福祉施策の現状を理解し、その課題について考え、児童福祉に理解を深めることができる。				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 汎用的能力) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	流石智子編著『児童家庭福祉・子どもの幸せを考える』あいり出版 2012年				
参考書	授業で指示する。				
留意事項	指示されたテキストを中心に授業をする。試験はテキストの持ち込みを、可とするので必ず購入すること。授業中にレポート課題の提示をしてレポート提出をしたり、ビデオを見て感想の提出を求める。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	児童福祉とは	(内容) 児童福祉の基本理解 (必要な準備) 児童の現状を新聞等で、理解しておく。			
第2回	少子社会と子どもの発達保障・少子化・子育て	(内容) 少子化と子育て支援の現状 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む			
第3回	少子社会と子どもの発達保障・母子保健と発達保障	(内容) 母子保健と子どもの発達保障 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む			
第4回	子どもの健全育成と課題・健全育成	(内容) 児童健全育成の今とこれから (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む			
第5回	子どもの健全育成と課題・保育ニーズ	(内容) 多様な保育ニーズと子育ての課題 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む			
第6回	子育て問題	(内容) 現代家庭のかかえる子育て問題 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む			
第7回	子どもと虐待	(内容) 子育て家庭と子ども虐待 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む			
第8回	子育てとドメスティック・バイオレンス	(内容) ドメスティック・バイオレンスと現代家庭 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む			
第9回	子育てと児童養護	(内容) 家庭で育つことができない子どもたち (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む			
第10回	障がいのある子どもたち	(内容) 障がいのある子どもたちへの対応 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む			
第11回	少年非行と子どもの育ち	(内容) 少年非行等に陥る子どもたちへの対応 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む			
第12回	社会的養護の理解と子どもの育ち	(内容) 社会的養護の充実と子どもたち (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む			
第13回	ひとり親家庭の現状と課題	(内容) ひとり親家庭の子どもたち (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む			
第14回	児童・家庭福祉の動向とこれから	(内容) 児童・家庭福祉の課題 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む			
第15回	諸外国の子育て事情	(内容) 諸外国の子育て事情 (必要な準備) テキストの関係のところをよく読む			
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。				

授業名	相談援助 a・b	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Consultation Support	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	名賀 亨	対象学生	幼児教育2ya～yg、yh～yn		
授業の概要	相談援助実践の技術であるソーシャルワークについて（主にケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク）発展過程や基本的枠組み、具体的な援助方法についてその概論を学習する。				
学習成果到達目標	1) 相談援助の基本的な考え方や方法、また直接援助技術および間接援助技術の内容と方法について理解する。 2) 学んだ技術を現場で応用実践することが可能となる。 3)				
評価方法	定期試験 (70%) ☑筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技	平常試験 (30%) □筆記試験 ☑レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点	☑知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ☑課題発見・解決能力 □() □()			
テキスト	使用しない 授業内容に沿ったプリントを配布				
参考書	適宜紹介する				
留意事項	保育士も実践現場において相談援助の諸技術を駆使、応用することが求められている。相談援助を 実践するためには価値や原則、過程を学ぶ必要がある。援助者としての基本を体感するため、またアクティブラーニングの視点でのワークショップなども組み入れた授業にしていくため積極的にかつ主体的に授業に参加すること。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	授業オリエンテーション	(内 容) 授業の内容と進め方、評価方法などの説明 (必要な準備) シラバスを読んでおくこと			
第2回	相談援助の基本 I	(内 容) 相談援助の基本的考え方を学ぶ (必要な準備) 配布したプリントを読んでおく			
第3回	相談援助の基本 II	(内 容) 相談援助の目的と価値観を学ぶ (必要な準備) 配布したプリントを読んでおく			
第4回	相談援助の歴史①イギリスとアメリカの場合	(内 容) 産業革命と COS・セツルメント運動 (必要な準備) 配布したプリントを読んでおく			
第5回	相談援助の歴史②日本の場合	(内 容) 日本における相談援助のあゆみを学ぶ (必要な準備) 配布したプリントを読んでおく			
第6回	相談援助の種類とその類別 直接・間接援助技術	(内 容) 相談援助の種類 直接・間接援助技術まで (必要な準備) 配布したプリントを読んでおく			
第7回	相談援助の種類とその類別 関連援助技術	(内 容) 相談援助の種類 関連援助技術 (必要な準備) これまでに配布したプリントの復習			
第8回	ケースワークの歴史と発展②メアリー・リッチモンドから現在まで	(内 容) アメリカにおけるケースワークの発展 (必要な準備) これまでに配布したプリントの復習			
第9回	ケースワークの原則①バイスティックの7原則	(内 容) バイスティックの7原則について (必要な準備) これまでに配布したプリントの復習			
第10回	ケースワークの展開過程について	(内 容) ケースワークの展開過程の詳細について (必要な準備) これまでに配布したプリントの復習			
第11回	グループワークの概要	(内 容) グループワークの歴史、展開過程、原則について (必要な準備) これまでに配布したプリントの復習			
第12回	グループワークの概要	(内 容) グループワークの事例から学ぶ (必要な準備) これまでに配布したプリントの復習			
第13回	コミュニティワークの概要	(内 容) コミュニティワークの歴史、展開過程、事例について (必要な準備) これまでに配布したプリントの復習			
第14回	相談援助の対象理解 人権の理解	(内 容) 相談援助における人権観について (必要な準備) これまでに配布したプリントの復習			
第15回	まとめ 授業全体の振り返りと試験について	(内 容) プリント及びノートを使った振り返り (必要な準備) 今まで配布したプリント			
オフィスアワー	水曜日 昼休み				

授業名	小児保健実習 a	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Infant Health Care Training	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	宮田 経子	対象学生	幼児教育2ya～yd		
授業の概要	保育の指導者として、あるいは将来母親として子育てする際に必要な乳幼児の健康管理の方法について、実習を通して学び、保育現場で起きる保健衛生の問題（乳幼児の疾病・その予防と早期発見、看護、救急処置等）について適切に対応できる能力を養っていく。				
学習成果到達目標	1) 乳幼児の成長と発達及び生理的機能の観察について理解する。 2) 乳幼児の基本的習慣の獲得への援助について理解する。 3) 日常生活に必要な看護技術について理解する。 4) 乳幼児の事故及び救急手当について理解する。				
評価方法	定期試験 (75%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	平常試験 (25%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input checked="" type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input "="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input 3"="" type="checkbox/>(</td> <td colspan="/>				
テキスト	『子どもの保健・実習』 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著 (同文書院)				
参考書	『小児保健実習ノート』 榎原洋一監修 (診断と治療社)				
留意事項	グループで実習を行うが、全員が技術を習得すること。事前にテキストの該当箇所をよく読んでおくこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション 乳幼児の扱い方	(内 容) 授業の進め方、乳児の抱き方と衣服の着脱 (必要な準備) テキスト p.89～92 をよく読んでおくこと			
第2回	身体発育の測定方法	(内 容) 身長・体重・胸囲・頭囲の測定、大泉門の観察 (必要な準備) テキスト p.35～39 をよく読んでおくこと			
第3回	乳幼児の発達 身体発育の評価法	(内 容) 発達曲線とカウプ指数、母子健康手帳の活用 (必要な準備) テキスト p.21～35 p.17 [母子健康手帳]			
第4回	バイタルサインの測定法	(内 容) 体温・脈拍・呼吸・血圧の整理と測定方法 (必要な準備) テキスト p.107～109 をよく読んでおく			
第5回	生理機能の観察 視力・聴力の測定方法	(内 容) 視力・聴力の発達と測定方法、尿便の生理 (必要な準備) テキスト p.86～89 をよく読んでおくこと			
第6回	歯の健康と歯みがき指導法	(内 容) 歯の発育、虫歯の原因と予防、ブラッシング法 (必要な準備) テキスト p.247～249 [歯ブラシと手鏡]			
第7回	咀嚼機能 母乳の与え方・調乳の方法	(内 容) 母乳と人工栄養の特徴、授乳と調乳の方法 (必要な準備) テキスト p.52～61 をよく読んでおくこと			
第8回	生活リズムの確立 赤ちゃん体操	(内 容) 生活リズムの作り方、発達を促す赤ちゃん体操 (必要な準備) テキスト p.41～43 p.73～84			
第9回	新生児の沐浴 身体の清潔法	(内 容) 沐浴の意義・沐浴の仕方、清拭・部分浴 (必要な準備) テキスト p.93～98 [エプロン]			
第10回	乳幼児の病気と看護 感染予防 手洗い	(内 容) ウイルス性・細菌性疾患と看護、手洗い方法 (必要な準備) テキスト p.161～183 をよく読んでおくこと			
第11回	一般症状に対する看護(発熱腹痛下痢便秘) 糞法	(内 容) 発熱・腹痛・下痢・便秘の看護、糞法の意義と方法 (必要な準備) テキスト p.113～119 p.127～129			
第12回	一般症状に対する看護(嘔吐咳嗽けいれん脱水) 消毒方法	(内 容) 嘔吐・咳嗽・けいれん・脱水の看護、消毒方法 (必要な準備) テキスト p.119～124 p.162～163			
第13回	薬の扱い方与え方 保育の現場での医薬品 エピペン	(内 容) 薬の正しい与え方、エピペンの使い方 (必要な準備) テキスト p.125～127 p.150 p.224			
第14回	乳幼児の事故 心肺蘇生法	(内 容) 事故・心肺蘇生法の意義と方法、AED の使い方 (必要な準備) テキスト p.185～204 p.207～211			
第15回	応急手当 包帯法	(内 容) 誤飲・創傷・熱傷の対処法、包帯の種類と方法 (必要な準備) テキスト p.204～207 をよく読んでおくこと			
オフィスアワー					

授業名	小児保健実習 b	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Infant Health Care Training	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	今井 富江	対象学生	幼児教育2ye～yg		
授業の概要	子どもの健康が守られることにより、保育実践はより豊かなものとなるため、保育者は子どもの発育発達状態、健康状態を正しく把握することが重要である。この授業では小児の発育発達状態を理解するとともに、小児の病気の予防、健康教育、疾病の早期発見、救急処置、看護、安全な保育環境についての知識と技術を習得することを目標とする。児童福祉施設の保健活動について理解し、小児の成長・発達をサポートするうえでの基本的な知識と技能を習得する。				
学習成果 到達目標	1) 乳幼児期の健康管理を適切にできる知識を獲得できる。 2) 乳幼児の発育を理解し説明できる。 3) 個々に応じた看護を理解し、感染予防、事故の予防等の方法がわかる				
評価方法	定期試験 (75%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (25%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点 <input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	「子どもの保健・実習」(同文書院) 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著				
参考書	「赤ちゃん子どもの健康相談」(婦人之友社)「保育保健の基礎知識」(日本小児医事出版社)				
留意事項	講義や演習により保育・子育てに役立つよう学んでいくため、事前に教科書等熟読しておくこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス・授業の目的等、乳幼児の扱い方	(内 容) 乳児の抱き方、衣服の着脱おむつのあて方 (必要な準備) テキスト P89～92 をよく読んでおくこと			
第2回	身体発育の測定方法	(内 容) 身長・体重・胸囲・頭囲の測定、大泉門の観察 (必要な準備) テキスト P35～39 母子手帳持参のこと			
第3回	乳幼児の発達 身体発育の評価法	(内 容) 発達曲線とカーブ指数、母子健康手帳の活用 (必要な準備) テキスト p21～p35 母子手帳持参			
第4回	バイタルサインの測定方法	(内 容) 体温・脈拍・呼吸・血圧の測定方法 (必要な準備) テキスト p107～p109 を読んでおくこと			
第5回	生理機能の観察 視力・聴力の測定方法	(内 容) 視聴覚の発達と測定方法 尿便の生理 (必要な準備) テキスト p86～p89 を読んでおくこと			
第6回	歯の健康と歯みがき指導	(内 容) 歯の発育 虫歯の原因予防 ブラッシング法 (必要な準備) テキスト p247～p249 歯ブラシと手鏡持参			
第7回	母乳の与え方と咀嚼機能の発達、調乳と消毒	(内 容) 母乳の与え方 人工栄養 授乳と調乳の方法 (必要な準備) テキスト p52～p61 を読んでおくこと			
第8回	生活リズムの確立・赤ちゃん体操	(内 容) 生活リズムの作り方、赤ちゃん体操 (必要な準備) テキスト p41～43 p73～84			
第9回	新生児の沐浴 身体の清潔法	(内 容) 沐浴の意義と沐浴の仕方・清拭・部分浴、 (必要な準備) p93～p98 エプロン持参のこと			
第10回	乳幼児の病気と看護 感染予防 手洗い	(内 容) 手洗い ウイルス性・細菌性疾患と看護 (必要な準備) テキスト p161～p183 を読んでおくこと			
第11回	一般症状に対する看護(発熱 腹痛 下痢 便秘)	(内 容) 発熱・腹痛・下痢・便秘の看護 冷罨法 (必要な準備) テキスト p113～p1194 を読んでおくこと			
第12回	一般症状(嘔吐 咳嗽 けいれん 脱水)などの看護 消毒方法	(内 容) 嘔吐咳嗽けいれん脱水の看護 吐物の消毒 (必要な準備) テキスト p119～p124 を読んでおくこと			
第13回	薬の扱い方与え方・保育現場での医薬品 エビペン	(内 容) 薬の与え方、エビペンの使い方 (必要な準備) テキスト p125～p127 を読んでおくこと			
第14回	乳幼児の事故 心肺蘇生法	(内 容) 事故 心肺蘇生法、AEDについて (必要な準備) テキスト p184～p211 を読んでおくこと			
第15回	応急手当・包帯法	(内 容) 全体的な復習 応急処置と傷の手当 誤飲 (必要な準備) 包帯法 テキスト p204～p207			
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する				

科目名	小児保健実習 c	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Infant Health Care Training	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	中村 洋子	対象学生	幼児教育2yh～yk		
授業の概要	保育の指導者として、あるいは将来母親として子育てする際に必要な乳幼児の健康管理の方法について、実習を通して学び、保育現場で起きる保健衛生の問題（乳幼児の疾病・その予防と早期発見、看護、救急処置等）について適切に対応できる能力を養っていく。				
学習成果到達目標	1) 乳幼児の成長と発達及び生理的機能の観察について理解する。 2) 乳幼児の基本的習慣の獲得への援助について理解する。 3) 日常生活に必要な看護技術について理解する。 4) 乳幼児の事故及び救急手当について理解する。				
評価方法	定期試験 (60%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (40%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『子どもの保健・実習』 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著 (同文書院)				
参考書	『小児保健実習ノート』 榎原洋一監修 (診断と治療社)				
留意事項	グループで実習を行うが、全員が技術を習得すること。事前に教科書の該当箇所をよく読んでおくこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション 乳幼児の扱い方	(内 容) 授業の進め方、乳児の抱き方と衣服の着脱 (必要な準備)			
第2回	身体発育の測定方法	(内 容) 身長・体重・胸囲・頭囲の測定、大泉門の観察 (必要な準備) 母子手帳持参のこと			
第3回	乳幼児の発達 身体発育の評価法	(内 容) 発達曲線とカウプ指数、その評価方法 (必要な準備) 母子健康手帳の活用方法・記入してみる			
第4回	バイタルサインの測定法と健康状態	(内 容) 体温・脈拍・呼吸・血圧の整理と測定方法 (必要な準備) 該当する教科書を読んでおくこと			
第5回	生理機能の観察 視力・聴力の測定方法	(内 容) 視力・聴力の発達と測定方法、尿便の生理 (必要な準備) 該当する教科書を読んでおくこと			
第6回	新生児の沐浴 身体の清潔法	(内 容) 沐浴の意義・沐浴の仕方、清拭・部分浴 (必要な準備) 該当する教科書を読んでおくこと			
第7回	母乳の与え方・調乳の方法・咀嚼機能	(内 容) 母乳と人工栄養の特徴、授乳と調乳の方法 (必要な準備) 該当する教科書を読んでおくこと			
第8回	歯の健康と歯みがき指導法	(内 容) 歯の発育、虫歯の原因と予防、ブラッシング法 (必要な準備) 歯ブラシ・コップ持参のこと			
第9回	生活リズムの確立 赤ちゃん体操	(内 容) 生活リズムの作り方、発達を促す赤ちゃん体操 (必要な準備) 該当する教科書を読んでおくこと			
第10回	乳幼児の病気と看護 感染予防 手洗い	(内 容) ウイルス性・細菌性疾患と看護、手洗い方法 (必要な準備) 該当する教科書を読んでおくこと			
第11回	一般症状に対する看護(発熱腹痛下痢便秘) 巻法	(内 容) 発熱・腹痛・下痢・便秘の看護、巻法の方法 (必要な準備) 該当する教科書を読んでおくこと			
第12回	一般症状に対する看護(嘔吐咳嗽けいれん脱水) 消毒方法	(内 容) 嘔吐・咳嗽・けいれん・脱水の看護、消毒方法 (必要な準備) 該当する教科書を読んでおくこと			
第13回	応急手当 包帯法・打撲・骨折の手当て	(内 容) 薬の正しい与え方、やけど・誤飲等手当 (必要な準備) 該当する教科書を読んでおくこと			
第14回	乳幼児の事故 心肺蘇生法	(内 容) 事故・心肺蘇生法の意義と方法、AED (必要な準備) 該当する教科書を読んでおくこと			
第15回	保育環境と母子保健活動	(内 容) 保育環境等、まとめならびに母子保健について (必要な準備) 該当する教科書を読んでおく、資料持参			
オフィスアワー	月曜 午後15時～午後17時まで				

授業名	小児保健実習d	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Infant Health Care Training	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	金山 典子	対象学生	幼児教育2yl～yn		
授業の概要	保育士として、あるいは将来の母親として子育てをする際に必要な乳幼児の健康管理の方法について実習をし、保育現場で起こる保健衛生上の問題に、愛情を持って適切に対応できる力を養う。また、事例を紹介しながら、現代の親子の課題と援助の在り方について学ぶ。				
学習成果到達目標	1 乳幼児期の健康管理が適切にできるように、実習を通して学ぶ 2 乳幼児の発達成長を理解し、基本的技術を習得する 3 感染予防、事故の時の応急処置ができるようになる				
評価方法	定期試験 (70%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『子どもの保健・実習』 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著 (同文書院)				
参考書	『小児保健演習ノート』 榎原洋一監修 (診断と治療社)				
留意事項	講義と演習により、保育現場で役立つよう「なぜ」を考え、原理原則を学び、実際に実施、応用、改善ができるために、事前に教科書等読んで臨むこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	科目ガイダンス・授業の目的	(内 容) 演習の目的と授業の進め方について (必要な準備)			
第2回	身体測定の実際とその評価方法	(内 容) 身長・体重・胸囲・頭囲の測定、および評価法 (必要な準備) 母子手帳持参のこと			
第3回	バイタルサインの測定方法と健康状態の観察法	(内 容) 体温、脈、呼吸の測定法、一般状態の観察法 (必要な準備) テキストの該当ページを読んでおくこと			
第4回	視力・聴力の測定方法	(内 容) 視覚聴覚の発達と視力・聴力の測定方法 (必要な準備) 視力・聴力について調べること			
第5回	沐浴実習	(内 容) 沐浴の実際と身体清潔法、抱き方、着替え (必要な準備) エプロン、上靴持参のこと。テキストの該当ページを読んでおくこと			
第6回	母乳の与え方と咀嚼機能の発達	(内 容) 母乳の与え方と子どもの咀嚼機能の発達 (必要な準備) テキストの該当ページを読んでおくこと			
第7回	調理法と消毒	(内 容) 哺乳瓶の消毒法と調乳 (必要な準備) エプロン、上靴持参のこと			
第8回	歯の健康と虫歯予防	(内 容) 歯の発育と歯磨き指導 (ブラッシング指導) (必要な準備) コップ、歯ブラシ持参のこと。テキストの該当ページを読んでおくこと			
第9回	生活習慣の自立・生活リズムの確立・排せつの世話	(内 容) 生活リズムの作り方と排せつの自立について (必要な準備) テキストの該当ページを読んでおくこと			
第10回	薬の与え方・手の洗い方・消毒法	(内 容) 薬の取扱、正しい手洗いの方法、消毒の基本 (必要な準備) テキストの該当ページを読んでおくこと			
第11回	異常症状の把握の仕方とその手当法	(内 容) 発熱・ひきつけなど異常症状の早期発見と手当 (必要な準備) テキストの該当ページを読んでおくこと			
第12回	腹痛、嘔吐などの観察や手当	(内 容) 痛み等症状の観察と手当法、経口補水療法等 (必要な準備) テキストの該当ページを読んでおくこと			
第13回	応急処置・怪我、骨折、打撲などの手当	(内 容) 応急処置と傷の手当て法、やけど誤飲の対処法 (必要な準備) テキストの該当ページを読んでおくこと			
第14回	心肺蘇生法・感染症発生時の対処	(内 容) AEDの使い方、感染発生時の対処法等 (必要な準備) テキストの該当ページを読んでおくこと			
第15回	保育環境と保健活動	(内 容) 全体的な復習をする (必要な準備)			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する				

授業名	家庭支援論 a・b		開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Studies on Family Support		開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	斧出 節子		対象学生	幼児教育2ya～yg、yh～yn		
授業の概要	現在子育てに関する多くの問題が提示されているが、家族のあり方そのものや、私たちの家族に対するイメージが問題解決を阻む要因となる場合も少なくない。本講義では、家族は歴史的産物であるという認識をもち、何が問題なのかということを広く社会システムの中で考え、それとともに何が家族の支援になるのかを国際比較も用いながら考えていく。					
学習成果到達目標	1) 現代家族の「見方」を習得することができる。 2) 現代家族がかかえる育児問題を理解する「視点」を得ることができる。					
評価方法	定期試験 (80 %)	<input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (20 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input checked="" type="checkbox"/> 積極的な授業態度) <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『男の育児・女の育児』大和礼子ほか編著(昭和堂)ほか、配布プリント使用					
参考書	『よくわかる現代家族』神原文子ほか編著、ミネルヴァ書房 ほか適宜紹介する					
留意事項	出席・授業態度を重視する。					
授業計画	学習項目			学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション・家族イメージについて			(内 容) 現在の私たちの家族イメージはどのようなものか理解する (必要な準備) シラバスをよんでおく		
第2回	近代化と家族			(内 容) 近代化することによって家族はどのような変化を遂げたのかを理解する (必要な準備) テキスト1章を読んでおく		
第3回	育児ストレス			(内 容) 育児ストレスや育児不安について理解する (必要な準備) テキスト2章を読んでおく		
第4回	母親の育児ストレス			(内 容) 母親の育児ストレスの実態について理解する (必要な準備) テキスト2章を読んでおく		
第5回	育児ストレス:事例研究			(内 容) 育児ストレスにかかわる具体的な映像を見る (必要な準備) 配布プリントを読んでおく		
第6回	育児ストレス:事例研究まとめ			(内 容) 事例を分析する (必要な準備) 前回のまとめをしておく		
第7回	母親の育児ネットワーク			(内 容) 母親の育児ネットワークについて理解する (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておく		
第8回	父親の育児			(内 容) 父親の育児の実態について理解する (必要な準備) テキスト4章を読んでおく		
第9回	父親の育児ストレス			(内 容) 父親の育児ストレスについて理解する (必要な準備) テキスト6章を読んでおく		
第10回	家庭保育時間の保障			(内 容) 育児休業について理解する。 (必要な準備) 配布資料を読んでおく。		
第11回	スウェーデンの子育て支援制度			(内 容) スウェーデンの子育て支援について理解する (必要な準備) スウェーデンの国について調べておく		
第12回	スウェーデンの子育て支援の実際			(内 容) スウェーデンの子育て支援の実際について理解する (必要な準備) 前回のまとめをしておく		
第13回	ノルウェーの子育て支援制度			(内 容) ノルウェーの子育て支援について理解する (必要な準備) ノルウェーの国について調べておく		
第14回	北欧からみる日本の子育て支援の課題			(内 容) 日本の子育て支援の課題を考える (必要な準備) 配布プリントを読んでおく		
第15回	まとめ			(内 容) 半期間の授業内容をまとめる (必要な準備) 疑問点をまとめておく		
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください					

授業名	養護内容 a・b	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Social Corporate Parenting	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	井上 新二	対象学生	幼児教育 2ya～yg、yh～yn		
授業の概要	社会的養護について理論的な内容を踏まえて説明するとともに、児童養護施設で生活する子どもたちの具体的な姿を紹介することにより、社会的養護の現状と課題を明らかにする。				
学習成果到達目標	1) 社会的養護の現状と課題を理解することができる。 2) 児童養護施設の子どもの現状と課題を理解できる。 3) ソーシャルワークのできる保育者としての姿勢・態度・実践力を身につける。				
評価方法	定期試験 (70%) □筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技	平常試験 (30%) ☑筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価の観点	☑知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 ☑(社会的養護を必要とする子どもたちへの共感的な感性) □()			
テキスト	特になし				
参考書	「児童養護施設の子どもの思いと願い」 井上新二著(明石書店)				
留意事項	保育士を志望する学生の履修を期待します。社会的養護の必要な子どもたちに対して、共感的な理解と実践的な姿勢を期待します。シラバスに示された講義内容に沿って予習・復習をしっかりと行ってください。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション 講義内容の概略 社会的養護に対する考え方を巡って		(内 容) 社会的養護の概略を理解する。 (必要な準備) 子どもの豊かな育ちに必要なものを事前に整理しておく。		
第2回	資料から見える社会的養護の現状と課題について(1) ①「施設型養護」の現状と課題 ②「家庭型養護」の現状と課題		(内 容) 新聞や関連のHP等の資料をもとに社会的養護の現状を理解する。 (必要な準備) 事前に関連の資料を探しておく。		
第3回	資料から見える社会的養護の現状と課題について(2) ①「要保護児童」の増加について ②「進学、就職の状況」の資料から見えてくるもの		(内 容) 新聞や関連のHP等の資料をもとに社会的養護の現状を理解する。 (必要な準備) 事前に関連の資料を探しておく。		
第4回	社会的養護の意義と役割について ①社会的養護とは… ②社会的養護の理念 ③社会的養護の役割と機能		(内 容) 社会的養護の意義と役割について理解する。 (必要な準備) 事前に関連の資料を探しておく。		
第5回	社会的養護の歴史的な背景について ①日本における社会的養護の歴史 ②国際的に見た社会的養護の歴史 ③子ども観の深まりと社会的養護		(内 容) 社会的養護の歴史的な背景について理解する。 (必要な準備) 子ども観の歴史的な変遷について関連の資料を読む。		
第6回	児童養護施設の入所理由から見えてくるもの (1) ①入所理由の主なもの ②入所理由の背景にあるもの		(内 容) 入所理由の背景にあるものを共感的に理解する。 (必要な準備) 児童養護施設に関する資料を調べておく。		
第7回	児童養護施設の入所理由から見えてくるもの (2) ①児童虐待について ②児童虐待の背景にあるもの ③児童虐待を防止するために		(内 容) 児童虐待の背景にあるものを共感的に理解する。 (必要な準備) 新聞報道等の虐待に関する資料を調べておく。		
第8回	児童養護施設の子どもの姿について(1) 日々の暮らしの中で		(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。		
第9回	児童養護施設の子どもの姿について(2) 気懸かりな子どもたちの様子		(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。		
第10回	児童養護施設の子どもの姿について(3) 子どもたちの強さと優しさ		(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。		
第11回	児童養護施設の子どもの姿について(4) 子どもたちの思いと願い		(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。		
第12回	児童養護施設の子どもの姿について (5) 将来の進路を巡って		(内 容) 子どもたちの置かれている状況を共感的に理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。		
第13回	社会的養護の実際(1) 家庭養護(里親) Aちゃんの事例を通して		(内 容) 里親制度について理解するとともに、里親の果たす役割について理解する。 (必要な準備) 関連の資料を探しておく。		
第14回	社会的養護の実際(2) 施設養護 ①ある児童養護施設が大切にしていること ②社会的養護における保育者の役割と責務		(内 容) 社会的養護における保育者の役割と責務について理解する。 (必要な準備) 社会的養護のために自分に何が出来るかをまとめておく。		
第15回	社会的養護の今後の課題 危惧される「マイナスの連鎖」を断ち切るために		(内 容) 危惧される「マイナスの連鎖」について理解する。 (必要な準備) 「マイナスの連鎖」について事前に調べておく。		
オフィスアワー					

授業名	施設養護論		開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Social Corporate Parenting		開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	芹澤 出		対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	施設養護を必要とする問題の発生状況と今日の特徴を踏まえた上で、事例を通してニーズの把握と具体的援助の方法について学ぶと共に、施設や施設職員の役割を理解し、援助者としてのスキルを身につけることを目的に学ぶ。					
学習成果到達目標	1) 施設養護を必要とする問題の発生状況と施設援助について理解する。 2) 子どもや親に対する支援について理解する。					
評価方法	定期試験 (90%) <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技		平常試験 (10%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()				
テキスト	プリントを配付					
参考書	児童福祉法 児童虐待の防止に関する法律					
留意事項	前半は講義を中心に学び、中盤には事例により施設の現状を理解する。後半には事例を中心に援助の展開について学ぶ。					
授業計画	学習項目		学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション・社会変化の理解		(内 容) シラバスの説明 家族観の変化と養護ニーズの理解 (必要な準備)			
第2回	家庭養育の現状の理解		(内 容) 家庭養育の現状について学び理解を深める (必要な準備) 家族観の変化についての復習			
第3回	施設養護の理解		(内 容) 施設養護の現状について学び理解を深める (必要な準備) 家庭養育の現状についての復習			
第4回	施設養護の理解(事例を中心に)		(内 容) 施設養護の現状について学び理解を深める (必要な準備) 前回授業内容の施設養護についての復習			
第5回	施設養護の理解(事例を中心に)		(内 容) 事例を通して施設養護に対する理解を深める (必要な準備) 前回授業内容の施設養護についての復習			
第6回	施設の理解(DV被害者支援)		(内 容) 事例を通して施設支援について考察する (必要な準備) 母子生活支援施設についての学習			
第7回	施設の理解(児童養護施設の理解)		(内 容) 事例を通して施設養護について考察する (必要な準備) 児童養護施設についての学習			
第8回	施設の理解(家庭的養護についての理解)		(内 容) 社会的養護課題と将来像 (必要な準備) 家庭養護・家庭的養護についての学習			
第9回	施設の理解(地域小規模児童養護施設の理解)		(内 容) 事例を通して施設養護について考察する (必要な準備) 家庭的養護・個別対応についての学習			
第10回	施設の理解(情緒障害児の理解)		(内 容) 事例を通して情緒障害児について考察する (必要な準備) 情緒障害児短期治療施設についての学習			
第11回	児童福祉法と児童虐待防止法		(内 容) 要保護児童と児童虐待への法的対応について (必要な準備) 児童福祉法と児童虐待防止法の学習			
第12回	少年犯罪の理解(事例を中心に)		(内 容) 事例を通して少年犯罪について考察する (必要な準備) 少年犯罪についての学習			
第13回	児童虐待事例検討(ネグレクト(身体的虐待))		(内 容) 事例を通して支援のあり方について考察する (必要な準備) これまでの学習の振り返り			
第14回	児童虐待事例検討(性的虐待)(心理的虐待)		(内 容) 事例を通して支援のあり方について考察する (必要な準備) これまでの学習の振り返り			
第15回	振り返りとまとめ		(内 容) 施設養護についてのまとめ (必要な準備) これまでの授業のまとめ			
オフィスアワー	担当授業終了後に実施する					

授業名	保育所保育論	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Nursery School Child Care	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	鈴木 えり子	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	近年、子どもや家庭を取り巻く環境は刻々と変化している。就労と子育ての両立支援が強く望まれる社会状況において、保育所の現状や保育事業に関する変化を把握する。保育所の社会的役割について学ぶ。また、保育所保育内容の特性、保育実践や保育活動の展開について考える。				
学習成果 到達目標	1) 保育所の社会的役割を理解する。 2) 保育所の保育内容を探求する。 3) 保育実践力を高める。				
評価方法	定期試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	随時プリントを配布する				
参考書	『新版 保育用語辞典』 一藝社 『最新保育資料集』 幼児保育研究会編 ミネルヴァ書房				
留意事項	保育所実習の経験を通して課題を明確にしながら、保育所保育の保育内容について理解を深める。受講人数、受講生の希望によって保育実践の内容を変更することもある。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	オリエンテーション・保育所保育の原理	(内 容) 保育所保育の基本的原理の理解 (必要な準備) 保育所保育の基本原則をまとめておく			
第2回	保育所の保育内容について	(内 容) 保育所実習を踏まえて相互に理解する (必要な準備) 保育所実習での経験を振り返る			
第3回	保育所の保育内容①	(内 容) 実習体験について意見交換し内容を考察する (必要な準備) 保育所実習での保育内容をまとめておく			
第4回	保育所の保育内容②	(内 容) 保育内容のねらいを考える (必要な準備) 保育所実習での保育内容を考察しておく			
第5回	保育所の保育内容③	(内 容) 保育内容の発表 (必要な準備) 発表の準備をする			
第6回	保育所の役割の理解	(内 容) 保育所の役割を理解する (必要な準備) 求められる役割をレポートにまとめる			
第7回	保育制度の理解・多様な保育ニーズへの対応	(内 容) 保育制度および現状の理解 保育ニーズの理解と問題点を探求する (必要な準備) 配布資料を読んでおく			
第8回	中間レポート 個別指導	(内 容) 中間レポートの添削をする (必要な準備) レポート作成・提出			
第9回	保育環境・保育者の役割についての理解	(内 容) 子どもの発達と援助の具体的に学ぶ ビデオ視聴しながら解説する (必要な準備) 保育所保育指針を読んでおく			
第10回	保育所の現状理解	(内 容) 子育て支援・地域との連携の具体例について学ぶ (必要な準備) 新聞やインターネットで関連記事を調査しておく			
第11回	保育実践Ⅰ	(内 容) 保育制作の実施 (おもちゃづくり) (必要な準備) 教材等の準備			
第12回	保育実践Ⅱ	(内 容) 保育制作の実施 (パネルシアター制作) (必要な準備) 教材等の準備			
第13回	保育実践Ⅲ	(内 容) 紙あそびの実施 (新聞紙) (必要な準備) 教材等の準備			
第14回	保育実践Ⅳ	(内 容) 表現あそびの実施 (子どものダンス) (必要な準備) 領域表現のねらいをまとめておく			
第15回	まとめ	(内 容) 保育者の資質および人間性について、自己反省を通して考える (必要な準備) レポート作成			
オフィス アワー	月曜日 午後15時から17時				

授業名	子育て支援論	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Theory of Child-care Support	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	流石 智子	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	現代の家庭における子育ての現状を理解する。現代の子育て支援の問題・課題を考え、今後どのような子育て支援制度が必要になってくるのか、また子育て支援を行っている人の専門性の向上にはどのような学びの場が必要かについても考える。				
学習成果到達目標	1) 現代の家庭の現状について理解することができる。 2) 子育て支援のあり方を学び、子育て支援の課題を考えることができる。 3) 子育て支援の事例を参考にして、具体的な子育て支援の方法を考えることができる。				
評価方法	定期試験 (70%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (30%) <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技			
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	森田明美編著『よくわかる女性と福祉』ミネルヴァ書房 2012年				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
留意事項	事前にテキストを読み、自分の考え方をもちグループ討議を行いながら授業を行う。関係の新聞記事などを収集しておく(授業で発表する)。関係ビデオをみることもある。アクティブ・ラーニングでの授業展開を考えているので必ず事前準備をしておくこと。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	少子化政策と子ども・子育て支援について		(内 容) 子育て支援と社会福祉、ジェンダー (必要な準備) テキストのはじめにを読む。		
第2回	子ども子育て支援策の特徴と課題について		(内 容) 男女共同参画を考える (必要な準備) テキストのはじめにのところを読む		
第3回	ライフスタイルの選択・自立、結婚、出産について		(内 容) 女性の自立、結婚、妊娠、出産について (必要な準備) テキストのp 42~47を読み問題点をまとめる		
第4回	ライフスタイルの選択・子育て、貧困について		(内 容) 子育て、女性と貧困について (必要な準備) テキストのp 48~55を読み、課題を発見する		
第5回	働くこと・女性の労働について		(内 容) 女性が働くことについて (必要な準備) テキストのp 56~63を読む。		
第6回	女性の賃金と労働環境について		(内 容) 雇用環境と女性と子育てについて (必要な準備) テキストのp 64~69を読み、働く環境を考える		
第7回	女性と家庭的責任について		(内 容) アンペイドワークとジェンダー (必要な準備) テキストp 70~75を読み、家事労働を考える		
第8回	母子保健・妊娠、出産の支援について		(内 容) 母子保健と妊娠期の支援について (必要な準備) テキストp 78~83を読み、支援策を把握する		
第9回	日本の子育て観・3歳児神話、育児不安について		(内 容) 日本の子育て観、育児不安、障害児の育児 (必要な準備) テキストp 84~95を読み、意見をまとめる		
第10回	保育・働きながら子どもを育てるとは		(内 容) 保育所の現状と課題について (必要な準備) テキストp 96~103を読み、保育所理解をする		
第11回	保育所と待機児童等の問題について		(内 容) 待機児童問題と保育所以外の子育て支援について (必要な準備) テキストp 104~109を読み、課題の発見をする		
第12回	子育て支援・家庭で子育てをすることは		(内 容) 家庭で子育て・児童虐待等の問題 (必要な準備) テキストp 110~115を読み、意見をまとめる		
第13回	子育て支援・社会が子育て家庭を支えるとは		(内 容) 家庭的養護と地域での子育て (必要な準備) テキストp 116~121を支援策の理解をする		
第14回	ひとり親家庭の養育問題について		(内 容) ひとり親家庭の支援策と養育問題 (必要な準備) テキストp 122~133を読み意見をまとめる		
第15回	ひとり親家庭の暮らしについて・本授業のまとめ		(内 容) ひとり親家庭の支援施設と暮らしの問題等 (必要な準備) テキストp 134~141を読み意見をまとめる		
オフィスアワー	研究室に日時を貼付するので、確認してください。				

授業名	児童文化	開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Children's Culture	開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	川北 典子	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	多様化を極める現代の子どもをとりまく文化的環境のなかで、玩具や絵本など、乳幼児の身近な児童文化財については、それらを手渡すおとなの役割が重要となる。この授業では、保育教材としての児童文化財の活用・伝達の技術体得をとおして、それらが子どもの心身の発達に及ぼす影響について考察する。				
学習成果到達目標	1) 子どもの生活に密接にかかわる児童文化について、概要を知り、その重要性を十分に理解する。 2) 実際に保育現場で、絵本や紙芝居、おはなしなど種々の児童文化財を活用することができるよう、技術や方法を習得する。				
評価方法	定期試験 (50 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (50 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 創作力	<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション能力	<input type="checkbox"/> 課題発見・解決能力	
テキスト	『子どもの育ちを支える 児童文化』川北典子編著 あいり出版				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
留意事項	講義が中心であるが、適宜実技も取り入れる。常に子どもをとりまく文化的環境に関心を持つこと。				
授業計画	学習項目	学習内容・課題			
第1回	児童文化とは何か	(内 容) 児童文化の概念を理解し、考察を深める。 (必要な準備)			
第2回	現代の子どもの生活と文化・文化財	(内 容) 子どもの生活と環境について見直す。 (必要な準備) 自身の子どもの頃の生活や遊び環境を思い出しておく。			
第3回	児童文化財(絵本の創造)	(内 容) 絵本とは何かの認識を深め、概要を学ぶ。 (必要な準備) 子どもにとっての絵本の意義を考えておく。			
第4回	児童文化財(絵本の種類)	(内 容) 絵本の種類について理解する。 (必要な準備) 自分の好きな絵本を見つける。			
第5回	児童文化財(絵本の内容)	(内 容) 絵本の年齢や発達に応じた役割を理解する。 (必要な準備) 多くの絵本を読み、選択する。			
第6回	児童文化財(児童文学・詩)	(内 容) 幼年文学や詩について、概要を理解する。 (必要な準備) 幼年文学や幼児対象の詩を読む。			
第7回	児童文化財(おはなし)	(内 容) 口演童話・ストーリーテリングについて学ぶ。 (必要な準備) おはなしを覚える。			
第8回	児童文化財(紙芝居)	(内 容) 紙芝居と絵本の違いを理解する。 (必要な準備) 紙芝居を演じる。			
第9回	児童文化財(人形劇)	(内 容) 人形劇の歴史と概要について理解する。 (必要な準備) 人形劇について調べる。			
第10回	児童文化財(玩具・遊具)	(内 容) 子どもの発達に応じた玩具や遊具を知る。 (必要な準備) 自身の子どもの頃に遊んだ玩具や遊具を思い出しておく。			
第11回	指人形の制作	(内 容) 簡単な指人形を制作し、演じ方を身につける。 (必要な準備) 指定された道具や材料を用意する。			
第12回	児童文化施設	(内 容) 児童館や児童図書館、博物館等について学ぶ。 (必要な準備) 地域の児童館や児童図書館(室)について調べておく。			
第13回	児童文化活動(遊び)	(内 容) 子どもの発達における遊びの重要性を理解する。 (必要な準備) 子どもにとっての遊びの意義について考える。			
第14回	児童文化活動(劇遊び・造形)	(内 容) 遊び以外の子どもの諸活動について学ぶ。 (必要な準備) 自身の子どもの頃に幼稚園や保育園で行った活動を思い出しておく。			
第15回	児童文化の展望と課題	(内 容) 児童文化にかかわる問題点と課題を考察する。 (必要な準備)			
オフィスアワー	授業終了後に実施する。				

授業名	保育実習指導Ⅱa	開講学年	2回生	単位数	1単位
英文名	Guidance on Child Care TrainingⅡ	開講時期	春学期	必修・選択	選択
担当者	鈴木えり子・藤井裕子・芹澤出・友本喜代子、東野洋子	対象学生	幼児教育2回生		
授業の概要	「保育実習Ⅱ」の事前・事後に行う学内指導。1回生の「保育実習Ⅰ」の保育所実習の経験を踏まえて、振り返り、学んだことを深化、発展させ、保育実習Ⅱ（保育所実習）に向けての実習課題を明確にする。「保育実習Ⅱ」の実習の意義や目的を認識するとともに、現代の保育所を取り巻く状況や問題点を理解し、保育士としての資質や能力を養う。				
学習成果到達目標	1) 保育実習Ⅱの具体的実習内容を明確できる。 2) 保育士の職業倫理を理解できる。 3) 指導計画を理解し立案できる。 4) 実習課題を明確にできる。				
評価方法	定期試験 () %	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	平常試験 (100 %)	<input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input checked="" type="checkbox"/> 制作物 <input type="checkbox"/> 口述 <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技	
評価基準	主たる評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・理解 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題発見・解決能力 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()			
テキスト	『保育実習』鈴木えり子編 相川書房				
参考書	随時紹介する				
留意事項	「保育実習Ⅱ」の実施に向けて、実習の重要な事項を学ぶ授業となるため無断欠席は認めない。学科の保育関係科目の習得状況及び出席状況によっては実習開始できないので注意すること。				
授業計画	学習項目		学習内容・課題		
第1回	オリエンテーション		(内 容) 保育実習Ⅱについての実習概要説明・講義の進め方 (必要な準備) 実習を終えてのレポート作成		
第2回	保育実習Ⅱの目的・意義		(内 容) 保育実習Ⅰとの相違点について(段階性を理解する) (必要な準備)		
第3回	保育実習Ⅰ(保育所実習)の振り返り 評価面談		(内 容) 保育実習Ⅰの振り返りや個別評価面談を通して、実習Ⅱの目的意識を高める。 (必要な準備) 保育実習記録		
第4回	保育実習Ⅰ(保育所実習)の振り返り 評価面談		(内 容) 保育実習Ⅰ(保育所実習)の振り返りや個別評価面談を通して、実習Ⅱの目的意識を高める。 (必要な準備) 保育実習記録		
第5回	保育実習Ⅰ(保育所実習)の振り返り 評価面談 保育実習Ⅰ(保育所実習)の振り返り		(内 容) 保育実習Ⅰ(保育所実習)の振り返りや個別評価面談を通して、実習Ⅱの目的意識を高める。 (必要な準備) 保育実習記録		
第6回	保育実習Ⅰ(保育所実習)の振り返り 評価面談 保育実習Ⅰ(保育所実習)の振り返り		(内 容) 保育実習Ⅰ(保育所実習)の振り返りや個別評価面談を通して、実習Ⅱの目的意識を高める。振り返りを通して、実習Ⅱ課題を明確にする。 (必要な準備) 保育実習記録		
第7回	実習生カードの作成・提出		(内 容) 実習生カードの作成 (必要な準備) 実習生カード作成に必要なもの		
第8回	保育士の倫理綱領について理解する		(内 容) 保育士の倫理綱領を解説しながら、保育士として、実習生としての倫理観を理解する (必要な準備) 保育士の倫理について考えておく		
第9回	保育実習Ⅱ 実習課題の確立		(内 容) 保育実習Ⅱの新たな課題を設定する (必要な準備) 実習課題を考えておく		
第10回	実習課題 添削・指導 個別相談・指導		(内 容) 実習課題の添削指導 個別相談・指導 (必要な準備) 実習課題用紙		
第11回	実習記録の配布 説明		(内 容) 保育実習Ⅱの実習記録の配布、記録の説明 (必要な準備)		
第12回	8月の保育内容 水遊びの指導 注意事項 指導計画の立案		(内 容) 保育実践を学ぶとともに、指導案作成の留意点の理解、指導計画の立案し実践に向けての準備をする (必要な準備) 夏の保育活動をイメージしておく		
第13回	実習に向けて 実習の心得		(内 容) 実習の心得、実習園とのオリエンテーション、質疑応答 (必要な準備)		
第14回	実習に伴う準備 書類の説明 質疑応答 個別指導		(内 容) 実習に伴う書類等準備についての説明 検便等 (必要な準備)		
第15回	訪問担当者との面談 相談 個別指導		(内 容) 実習訪問担当者との面談 個別指導 (必要な準備)		
オフィスアワー	各教員より 時間については授業内で連絡する				

実 習 名	教育実習	幼児教育学科
実習担当者	岸優子・乾真理子・下温湯まゆみ・堀出雅人・石川千加代 鈴木えり子・藤井裕子・山部泰司・浅田瞳・小川隆昭・坂口みゆき	
実習の概要		
<p>幼稚園教諭二種免許状取得に必要な幼稚園教育実習を行う。</p> <p>実習では、幼稚園の保育の中で幼児や教師とのかかわり、一人一人の幼児を理解することが重要であり、教師の姿から保育に対する考え方や指導方法を学んでいく。さらに、幼児とのかかわりを通して子ども観、教育観を形成していくための幼児理解を積み重ねていくことが重要である。</p> <p>机上の勉強だけでは習得できない様々な体験を重ね、幼稚園の教育現場で教員として実際に保育していく上に必要なことを学び、学校で学んだ理論や学習内容を確認する。</p> <p>実習は教師として人間としての成長する重要な学びの場であり、教師として幼児を育てる意義について深く考え自覚する貴重な機会である。</p> <p>附属幼稚園や各都道府県の幼稚園で、2年次に4週間、教育実習を行う。(6月に2週間、9月に2週間の2回行う。原則として、同一園で2回実習を行う。)</p> <p>教育実習は、限られた期間内で効果的な体験が得られるよう、次の段階を踏まえて実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前オリエンテーション 実習園でオリエンテーションを受け、実習園の沿革、人的・物的環境、学級編成、幼児の実態、教師の役割などを総合的に把握し、幼稚園の全体像を知る。 2. 参加実習 担任の助手的な立場で保育活動に参加し、幼児とのかかわりを実習体験し、幼児のすがた、教師の対応を体験しながら学ぶ。 3. 部分実習・指導実習(研究実習) 実習生が責任をもって指導計画案を立案し、実際に指導を担当する。この指導実習を通して自ら反省し指導を振り返る。さらに、担当教員から講評・指導を受けて、次への指導の向上を図る。 		
備考		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習事前指導(1回生秋学期、2回生春学期)を必ず履修していること。 ・出席状況及び各レポート未提出物の場合、実習を中止することがあるので気をつけること。 		

実 習 名	保育実習 I a	幼児教育学科 1 回生
実習担当者	鈴木えり子・藤井裕子・芹澤出・箱田成司・日永よし子 浅田瞳・乾真理子・下温湯まゆみ・山部泰司・堀出雅人・小川隆昭・坂口みゆき	
実習の概要		
<p>「保育実習 I」は、次の2種類の実習を両方とも履修する必要がある。1つは保育所で行う「保育所実習」であり、もう1つは児童福祉施設または知的障害児(者)施設で行う「施設実習」である。保育所の保育士、その他の児童福祉施設の保育士は、ともに児童福祉施設の保育士として位置づけられている。したがって、施設種別の違いはあるが、ともに保育士職には必要な実習である。社会福祉施設における入所児(者)の発達や暮らしを保障する保育現場に行き実践を通して学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育実習 I」の目的は、各教科ですでに習得した基礎知識や技能を現場の職務に応用し、その経験を通じて保育士に求められる能力を培うことにある。保育士に求められる役割を学び、自らの職業選択にとっても大きな意義になる機会とすることが望まれる。 2. 保育所実習について 実習先は公立・私立の認可保育所である。 実習期間は、全クラスとも1回生の年度終了時期の2、3月に実施。原則1日8時間80時間以上(10日以上)の通勤による実習である。実習先の選定等については本学の指導に従うこと。「保育実習指導」において説明する。 3. 施設実習について 実習先は、乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設・知的障害者更生施設である。いずれかの施設を1カ所学校で配属する。実習期間は、原則として1回生の年度終了時期の2、3月に実施する。原則1日8時間80時間以上(10日以上)の実習を行う。実習形態は、原則として宿泊による実習である。一部は通勤になる場合がある。 4. 実習計画 実習前に学内および各実習先でのオリエンテーションを受け、各自が実習課題をたてて問題意識を持って実習に臨む。実習当初は、見学・観察実習を通して、保育所や施設、また入所児等について全体的に把握し理解を行う。実習に数を重ねるなかで、部分実習や責任実習を行い、保育士としての役割を実践的に理解する。実際には、実習担当職員から指導を受けて実習をする。実習にあたっては実習する保育所・施設の方針および実習計画を遵守すること。 		
備考		
<p>「保育実習指導」の出席状況および各種レポート等の提出がない場合には実習を中止することもあるので気をつけること。また、保育関係の授業の履修状況においても同様である。</p>		

習 名	保育実習Ⅱa	幼児教育学科 2 回生
実習担当者	鈴木えり子・藤井裕子・芹澤出・友本喜代子・東野洋子 浅田瞳・乾真理子・下温湯まゆみ・山部泰司・堀出雅人・小川隆昭・坂口みゆき	
実習の概要		
<p>保育実習Ⅱは、選択必修科目（2単位）であり、保育実習Ⅰの保育所で学んだ内容を基礎にしながら、保育所保育士としての実践力や応用力をさらに高める機会とする。</p> <p>実習先の選定については、基本的には各自が選択する形態とし、実習期間は2回生夏休み8月初旬から9月初旬、原則として一日8時間80時間の実習を行う。</p> <p>学内指導では、保育実習Ⅰで得た実習成果を履修者相互で共有し、ディスカッションするなかで、保育実習Ⅱに対する目的意識を明確にするとともに、保育所の役割や機能および社会的役割や理解を深める。さらに、指導計画を立案し保育士としての全般的な保育技術の習得向上をはかる。また、保育実習Ⅱに向けて「保育実習指導Ⅱ」を実施する。</p> <p>実習終了後は実習成果の発表を実施し、学習内容をより深めるとともに、各自の今後の課題を見つけていけるようにする。実習にあたっては、実習する保育所の方針および実習計画を遵守すること。</p>		
備考		
<p>「保育実習指導Ⅱ」を必ず履修終了しなければならない。</p> <p>「保育実習指導Ⅱ」の出席状況および各種レポート等の提出がない場合は実習を中止することもあるので気をつけること。また、保育関係の授業の履修状況においても同様である。</p>		

実 習 名	介護実習a	介護 2 回生
実習担当者	高岡理恵・武田康晴・池田登美子	
実習の概要		
<p>介護の実体験を通して、学内での学習内容を統合させることで、介護の意義を理解し実践する基礎的能力を習得する。</p> <p>(実習目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 ②個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。 ③介護従事者としての倫理や、介護における安全や連携・チームケア等について理解し多様な状況下で生活する人々への援助のあり方について基礎的な実践能力を習得する。 <p>(実習内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「実習施設・事業等（Ⅰ）」 <ul style="list-style-type: none"> 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置いた実習の実施。 *「第1段階介護実習」1回生秋学期11月に2週・12日間（1日の実習時間は実動8時間とする） <ul style="list-style-type: none"> 身体障害者療護施設・重症心身障害児施設・救護施設及び介護保険法関連施設・事業等にて実施する。 *「第2段階介護実習」1回生秋学期2～3月に4週・22日間（1日の実習時間は実動8時間とする） <ul style="list-style-type: none"> 訪問介護・通所介護・通所リハ・介護老人福祉施設・介護老人保健施設等の介護保険法関連施設及び身体障害者療護施設・重症心身障害児施設・救護施設等にて実施する。帰校日の設定あり。 2 「実習施設・事業等（Ⅱ）」 <ul style="list-style-type: none"> 一つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践することに重点を置いた実習の実施。 *「第3段階介護実習」2回生春学期8月に4週・23日間（1日の実習時間は実動8時間とする） <ul style="list-style-type: none"> 実習施設・事業等（Ⅱ）の実習施設として、一定の要件を備えた介護老人福祉施設・介護老人保健施設等を中心に実施する。帰校日の設定あり。 実習施設の配属は教職員が行う。宿泊を伴う場合もある。実習に伴う交通費や宿泊費、食費等は学生の実費負担となる。 		
備考		
<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習は学内での学習である「介護総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」と密接な関連をもちながら進められる。実習に伴う準備や手続き、事前・事後指導等はこれらの授業中に行う。したがって、欠席や遅刻のないようにすること。テキスト・手引き・配布資料・参考書等必携のこと。 ・記録物や指定書類は提出期限を厳守すること。実習に伴う諸手続きは指定期間内に行うこと。 ・系統立てた実習を行うため、指定期間に指定された実習を、段階別順に履修（計450時間）すること。 ・実習では、指導者の指導と助言のもとに、常に学生としての節度ある態度や服装で臨むこと。 ・日頃から自己の健康管理に留意し、インフルエンザ・感染症等の予防に努めること。 		